［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

作成日　2008年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	０８７０２００４２５
法人名	医療法人　圭愛会
事業所名	グループホームことぶき
所在地	茨城県日立市大久保町2409－2 （電　話）0294－34－3338

評価機関名	特定非営利活動法人　認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台４－９－３　D101		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】（平成　年10月　1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成14年　4月　5　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	15　人	常勤　15 人，非常勤　0　人，常勤換算7～8　人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	40,000　円	その他の経費（月額）	15,000　円
敷　金	有（　円）	○無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	50,000円 無	有りの場合 償却の有無	有／○無
食材料費	朝食　円	昼食	円
	夕食　円	おやつ	円
	または1日当たり　1，200円		

（4）利用者の概要（　月　日現在）

利用者人数		17 名	男性　2 名	女性	15 名
要介護1		7　名	要介護2	4	名
要介護3		4　名	要介護4	1	名
要介護5		名	要支援2	1	名
年齢	平均	83.8 歳	最低　70 歳	最高	92 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	日立梅ヶ丘病院・聖麗メモリアル病院・滝歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当該事業所の特徴は、職員一丸となって入居者の質の高い生活を維持しているところにある。入居者は皆穏やかで、ホーム全体が醸し出す雰囲気が温かい。またみな清潔でかつ服装の細部にまで気配りされている。役割や楽しみ事も各入居者多くある。「より質の高いケアを提供する」という信念が形となって表れている。環境は太平洋が一望できる高台にあり、また自然に囲まれており、高齢の方がゆっくりと過ごす環境として最適と思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回の外部評価において2点の指摘、すなわち「重度化や終末期に向けた方針の共有」及び「災害対策」において格段な進歩を見ることができた。前者については家族の同意書・終末期のマニュアルの作成及び職員への周知、後者については長期保存用の食糧備蓄、また保存した食料については、賞味期限にまで注意を払い、表にまとめて常にチェックをしている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価を行う際は、職員全員で話し合いを行っている。そのことにより、全ての事項に関しての共通認識が生まれ、運営管理者の考えや理念が確実に職員に伝わっている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

運営推進会議は、入居者とその家族をはじめ、社会福祉協議会局長、市町村職員、民生委員、学識経験者、等に出席をしてもらっており、2ヶ月に1回定期的に開催している。そこで運営状況等を報告し、意見をもらい、ホーム運営に反映している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

家族会があり、そこで話し合われたことが運営管理者に伝えられる。しかし、これまで大きな苦情や不安はあがってきたことはない。年に2回ホームで大々的に開催される家族会において、入居者、家族、職員とで食事をしたり、出し物を披露したり、という関係を築いていることにより、自然と信頼関係が生まれているようである。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

当該ホームの立地は、地域と触れあい連携するには必ずしもよいものとはいえない。それだけに、地域との連携は職員間で強く意識されている。それは例えばできるだけ入居者と外出するようにしていたり、地域の敬老会に類する会が催す会合に入居者、職員とも参加するようにしていたり、また市から依頼される講演等の演者として積極的に職員が応えたりしていることなどにあらわれている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	端的でわかりやすい理念を掲げているが、その中で「地域とのふれあいを大切にします。」というフレーズがあることからもわかるように、地域密着型としての理念を掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口や居間等見えやすい場に理念が掲げられている。管理者、職員とも理念を共有しケア実践に表れるように心がけている。これは、ケアプランを策定する際、必ず理念に立ち返るようにしていることからもうかがえる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人々をボランティアで受け入れる、実習生を1年を通じて受け入れている、地域の交流センターが開催する「木曜サロン」には可能な限り毎週入居者と職員が参加する、といったことから、地域とのつきあいは大変積極的かつ円滑に行われているといえる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価において指摘を受けていた事について、大きく改善されていたことからも分かるように、運営者、管理者、職員は自己評価や外部評価の意義および活用の方法を深く理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。出席者は、入居者とその家族をはじめ、社会福祉協議会局長、市町村職員、民生委員、学識経験者、等である。そこで運営状況等を報告し、意見をもらい、ホーム運営に反映している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは運営推進会議以外の行き来や連携が図られている。具体的には、市が事業所職員に市民向けの講演を依頼してきたり、ケーブルテレビの撮影を依頼され、それを受けたり、と市における認知症に関する啓発活動に貢献している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便りを家族へ郵送することにより、来訪回数が少ない家族にも、入居者の状況が伝わるようにしている。また家族がたずねてきた際にも具体的に本人の状況を報告するようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議、家族がホームを来訪した際、等家族と接点がある時に意見等を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には職員の入れ替わりは大変少ないが、希にある場合は利用者へのダメージを防ぐために説明をしたりといった対応を取っている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「新人職員を皆で育てる」という意識は運営者・管理者のみならず職員にも浸透している。また法人外研修を受ける機会も多く確保されており、希望をすれば基本的には受講ができる。研修を受けてきた職員は月1回の勉強会において報告を義務づけられており、新たな知識や技術が各職員に満遍なく行き渡るようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者は県北のグループホーム協議会に参加し、その場において情報交換、意見交換を行っている。また勉強会も開催されていて、それにおいてのプレゼンテーション等を順番に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所を希望する人には、事前に職員が面談をしたり、半日の入所体験をしてもらったりして馴染みながらサービスを利用してもらえるように工夫をしてる。また家族には必ずホームを見てもらい、納得してもらってから入居手続きをとるようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者から何かを学ぼう、共に過ごそう、という意識を備えており、ケアに反映している。具体的には、包丁の使い方や昔の遊び、歴史的な事項等を実際に教わった、ということであった。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意見や入居者らしさを聞いたりし、これまでの生活状況や習慣を考慮しながらケア実践に努めている。入居者に関する新しい情報は記録するようにし、職員間で共有するようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族、医師の意見を聴き、カンファレンスの中で介護計画を作成している。また家族には入居者の状態や状況を理解してもらいながら、ケアプランの説明や確認をしてもらうようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1度見直しを行っている。ただし必要に応じて3ヶ月を待たずに見直すこともある。課題に関してのモニタリング後、課題の継続、あるいは新たな課題を設定するなりして修正を行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別的支援をするために、事業所がもつ多機能性を存分に活かすように心がけている。これはケアのみならず、時には適切な人材の確保においても、同法人の病院からの人材を確保するということからも事業所の多機能性や強みを活かしているといえる。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院においての受診、提携病院以外の病院での受診希望等臨機応変に必要な医療を受けられるような対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	前回の外部評価において改善の指摘を受けていたが、家族の同意書・終末期のマニュアルの作成及び職員への周知が徹底されており、格段の進歩がみられた。	○	ただし、これまで入居者の終末期をホームで迎える経験がないため、引き続きより具体的な場面をシュミレートしながらの方針固めをすることが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から職員間でプライバシー確保の意義について話し合いを行っている。この取り組みが、例えば月報に入居者の情報を入れる場合は本人や家族に許可を得る、といった事に表れている。また「家族のプライバシー」ということにも注意を払っており、例えば勤め先にホーム名で電話をしない、といったところにまで配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームとはいえ、やはり集団生活ではあるので、一日の大まかな流れは決まっている。しかし、本人の状況や意向にあわせて随時変更をして対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを職員、入居者と一緒に行っていた。また食事を開始する前の挨拶等を入居者が行うといった工夫もされていた。入居者は職員と会話をしながら、皆楽しそうに食事を摂っていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に毎日行っている。入居者の希望やタイミングに合わせての入浴支援をしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動物（犬、うさぎ、金魚）の世話、庭掃除、テーブルふき、食事の支度、新聞を取ってくる、ホームセンターの買い物の付き添い、といった具体的に役割が決まっている。調査当日も、入居者がテキパキと自分の役割を遂行している場面に何度か遭遇することができた。その際の入居者の表情は活き活きとしていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、散歩、買い物、外食、カラオケ等可能な限り事業所の中だけで過ごさないように工夫をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の窓、居室に鍵はかけていない。入居者は自室や廊下等自由に出入りしていた。また日中は自由に外に出たり、ベランダに出たりできるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を6ヶ月に1回、隣接する病院と一緒に行っている。また非常食の備えもされており、かつその賞味期限にも気を配っている。また災害時にはすぐに持ち出せるような工夫がされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前栄養士が作成した献立ノートがあり、それを参考に毎日職員が入居者と共同で作成している。個人個人に見合った量で食事が提供できるように、それぞれの器が違っており、工夫されていた。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所全体は清潔かつ整然と保たれているが、良い意味での生活感があり、また季節感も演出され居心地良く過ごせるように随所に工夫が凝らされている。日当たりが大変よいが、まぶしい場合などはブラインドが用意されていて、光の調節も随時なされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋、作りが同じとは思えないほど個性的であった。各々が使い慣れた馴染みのものを持ち込み、おもいおもいに過ごしやすい空間を作って生活をしていた。各部屋とも文字通り「自室の部屋」という印象を受けた。		